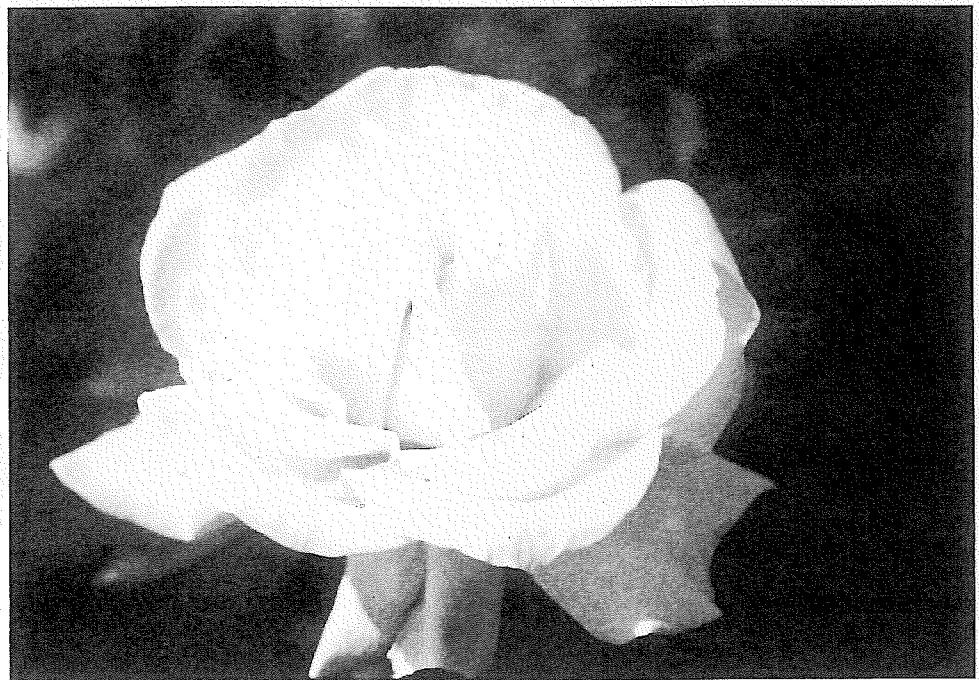


まいたいき

川柳



平成26年

10月号 (No.659)

日川協加盟

卷頭言

我見ということ

願法みつる

池では餌を与えると、水鳥や鯉や亀が必ず寄つて来る。そんな中、年寄り臭い姿の亀達には、特別に情を掛けている。全く鈍重なのだ。潜水艦のように下から突き上げる鯉にしばしば横取りされる。その亀達が、最近、近寄つて来ない。ヒトの氣も知らないで。

そんな時、「我見」という言葉に出会つて目が覚めた。自分以外の自然の當みには、それぞれの生き方があり、人間であれば心がある。心の基準は様々である。だから、亀には亀なりの事情があるということだ。

私を含めて、多くの人は我見とか我執とか、個人の片寄つた思い込みで、他人を見、そして批判し易い。そして家族・仲間・上司部下・先輩後輩・師弟・経歴などを介する人間関係の場で、我見に染まるニンゲンを多く目にすることになる。川柳界も又同じである。彼らは等しく、自分は善であり円満な人格者であり、他が歪んでいると考えるだろう。しかし善悪、正邪とは、心の裏表であり、紙一重だ。よくある人間の業の姿だと思う。自分自身を知れとはまさに至言である。

我見や我執を捨てて、性善も性悪も等しく取り込んでしまえば、自分が見えて來るという万古の哲學だ。他人批判よりは自己内省という事か。なあ亀さん。

十月号 目次

表紙
願法みつる

わたしの好きな句 茂木道子
卷頭言 我見ということ
彩玉集一同人吟

古丘の世界

雑詠

映像川柳

七七句

ふるさと紀行 「ふるさとつれづれ」

エッセイ 「旧安田邸とつづじ」

埼玉川柳会の第一人者

私の秋 清水美江

交替鑑賞 (九月号より)

初步添削講座 「聴く」「雑詠」

題詠 「拭う辻直子

「人情」 千葉古丘

「ねちねち」 岡田時雄

選選選選

久保田寛容 国嶋竹内田三子

加藤孤太郎 武石原弘子

表紙 (題字・清水 美江 写真・千葉 古丘)

表紙

4 3 38 36 35 31

29 25 23 21 20 18 17 14 6 6 5 2 1 2

表紙 (題字・清水 美江 写真・千葉 古丘)

句会案内

編集サロン

大会等ご案内

九月句会スナップ

さいたま九月句会

オール女性選 「美しい花達」 句会報告

九月句会スナップ

大会等ご案内

九月句会スナップ

さいたま九月句会

オール女性選 「美しい花達」 句会報告